

議 事 録

会 議 名	令和2年度 第1回 教育課程編成委員会
日 時	令和2年10月23日(金) 15:00~17:00
場 所	中央工学校OSAKA 1号館 31・32教室
参 加 者	[委 員] (敬称略) 小松原 学、金沢 ちかこ、小坂田 昌広、田中 由之、 田尻 元子(欠席)、岩尾 美穂(欠席)、中嶋 潤 [関係職員] 中村 聖吾、中島 征治、平上 秀明、原 充介、 戸澤 まり子、西村 宜晃(司会)、岡野 和生、成田 雄大(欠席) 吉田 知恵(記録)、唐木 恵美
内 容	1. 令和2年度 第1回 教育課程編成委員会 司会の西村 宜晃職員が開会の挨拶を行い、教育課程編成委員会 が開会した。 (ア) 配布資料の確認 西村 宜晃職員から、本日の配布物の確認を行った。 (イ) 学校長挨拶 中村 聖吾校長から本校における現状について報告があった。 ・新型コロナウイルスの影響により、4月の入学式を中止し6月 より授業を開始した。開始後は、マスク着用・机の除菌・三密にな らない対策をした上で、ほぼ従来通りの授業体制で実施できた。 土曜日や夏休み期間も使い、遅れた内容は取り戻し無事に前期を 終えた。感染者や濃厚接触者もなく、後期に入ってからも授業を 続けられている。 ・7月のインターンシップは中止とし、8月18、20、21、24日に 4日間の代替研修を実施した。内容は、オンラインでの業界研究や ビジネスマナー等とした。 ・研究科の15名が二級建築士の学科試験を受験し、8名が合格し た。昨年と比較すると合格率が下がったが、新型コロナウイルス

感染症流行による精神面への影響や、4・5月に対面授業数が減ったことが原因と考えられる。

・転科システムにより、建築学科から住宅デザイン科へ2名、住宅デザイン科から建築学科へ1名、住宅デザイン科からインテリアデザイン科へ2名の、計6名が転科した。

・建築学科1年生と住宅デザイン科1年生の富士施工実習も中止とし、学内で研修を実施した。研修は、建築コンサルティング事業を手掛ける企業に委託し、施工管理に必要な建築知識について4日間の対面授業による研修を行い、1日は自宅でのレポート作成を行った。

・秋の文化行事として10月22日に昼間部1、2年生による作品発表会を実施した。また、本日10月23日より3日間は、六甲ミーツ・アート芸術散2020の見学研修とした。昨年は、生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（通称イケフェス大阪）の建築見学研修を実施したが、今年はバーチャル開催になった為、急遽変更した。

・高等教育の無償化と合わせ、新型コロナウイルスによって収入が大幅に減少した学生に対して「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』が創設され、本校でも計48名の学生に650万円の給付金が支給された。

・6月15日付で入職した唐木 恵美を紹介。

(ウ) 戸澤 まり子建築系学科長より、令和2年度の建築系の教育について報告があった。

(1) 教育基本方針について説明を行った。

(2) 各学科の目標についてオープンキャンパスの資料に基づき説明した。

(3) 今年度の結果について説明した。

- ・昼間部 2 年生（インテリアデザイン科）が 2 級建築士の学科に合格した
- ・各科の就職状況について

(4) 建築系の運営について説明を行った。

(5) ZOOM 授業における準備と実施成果について説明を行った。

(6) 新型コロナウイルス感染症に対する対応について説明を行った。

平上 秀明教務部長：

最新情報については学校のホームページに掲載しているので、御覧頂きたい。

(エ) 令和 2 年度 前期の優秀作品の見学を実施した。

平上 秀明教務部長より建築学科の作品説明、西村 宜晃職員より住宅デザイン科の作品説明、戸澤 まり子学科長よりインテリアデザイン科の作品説明、西村 宜晃職員より建築 CG デザイン科の作品説明を行った。

(オ) 意見交換

本日の委員会での意見交換を行った。

(1) 本日の説明や作品見学をされた感想をお聞かせください。

① 小松原 学委員

現状に即した教育設備や教材が求められるが VR に対してはいかがか。最近施工管理危機予知でも使用されたりしている。今の学生は、言葉で表現しても理解してくれない。動画などを見せることによって理解するような時代になっている。そのようなツールをいかに教育の中に取り入れるのかが課題だと思う。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から学ぶこともあったと思うが、そういった点を強化していったら良いと思う。

気になる点としては、普通高校出身と工業高校出身との差はどれほどあるのか。

平上 秀明教務部長：

入学後すぐは工業高校出身の学生の方が有利ではあるが、すぐに普通科の学生も同レベルに達する。工業高校だからという点での差は、卒業時にはほとんどない。理解力や基礎学力があれば、学んでいくうちに一定レベルまで習得できる。

小松原 学委員：

そういう点ではやはり、基礎教育を徹底してやっていくことを行ってほしい。例えば、構造力学においても数学などの知識が大切である。

① 金沢 ちかこ委員

全学科が半年間同じことをしてから、それぞれの進路に進むことは良いことだと感じた。適性を見出して、学生を導く教育が良い。

今の時代は、ビジュアルありきだと感じる。お客様もスマホを使って事例写真を見せてくださることが多い。ただ、写真の表面上を見るだけでなく、なぜそれを選ばれたのか、インテリアや建築のプロとしてはその本質を見抜く力が必要。実務との距離感の近い授業をされていると感じたので、その点はアピールしてはいかがか。

② 小坂田 昌広委員

作品を見て、思いもよらない発想が出るものだと感じた。学生の素質を見抜くことについては、会社としても新卒が入社してきた時に、本人がやりたいと言っていることとは別に「向いている」部署につかせることがあるので、その点は共感する。学生がどこに興味を抱くのか、気になるところである。

教育基本方針については、どのように作成されておられるのか。ボリュームがあり、いろいろな方向から書かれている。少し分かりづらいと感じた。

平上 秀明教務部長：

学校の運営の中では、国際系と建築系があるため、見づらい部分があるかもしれない。内容としては分けて記載している。

中村 聖吾校長：

学校教育計画がまずあり、より細かい内容がこの教育基本方針であるが、毎年積み重ねで改善しながら作成しているものなので、ボリュームもあり少々見づらい点があるかもしれない。

中島 征治職員：

今後は高校生が見ることも考えて、分かりやすいものにしていく必要があると感じている。

小坂田 昌広委員：

こういった資料づくりにも時間が割かれることですので、簡易化されてはいいかがか。

③ 田中 由之委員

コロナ禍での授業など、ご苦労されたかと思う。当方が教えている大学でも学園祭を実行するという話があり、実行委員の中で感染が広がり休校になった事例もあるので、気を付けていただきたい。パース作品のレベルが自分達の頃より高いと感じた。パースについては、基礎的な描き方を厳しく指導するだけでなく、ハードルを下げても描き続けるような指導をしてあげてほしい。

④ 中嶋 潤委員

作品を見学して、設備コースについては、設計コースの学生と一緒にやらせてみてはどうか。負荷計算から提案できることもあり、より達成感も得られると思う。インテリアデザイン科の作品については、ビジネス目線での作品は評価しづらい点があるのではないかと感じた。

戸澤 まり子学科長：

評価方法については、プロセスを評価している。コンサルティングを専門にしている方を講師として迎えているので、答えを評価するのではなく発想を鍛えることを目的に考えている。

中嶋 潤委員：

なるほど、わかりました。パースについては、綺麗に仕上げることから、フリーハンドのトレーニングもしてほしい。実務ではお客様の前で描けるかどうかであるので、もう一步踏み込んで実務に近い内容にしてはどうか。

もう1点、「5mキューブ」の作品は、5mという数字が中途半端な数字な気がする。最小単位の理屈（空間単位の根拠）もあると良い。

平上 秀明教務部長：

当初、大学の課題などを参考に色々検討して取り入れた。5mあれば2層にもできるし、1つの空間としても扱える。この課題は、やりたいことを自由に表現したり、発想力を鍛えたりすることを目的としている。

田中 由之委員：

極小空間を考えることは良いと思う。空間をいかに使えるかを寸法と共に考えられる。

中嶋 潤委員：

引き算型の課題なので、レゴのような足し算型の課題もあって良いかもしれません。

(キ) その他

平上 秀明教務部長より、次回の教育課程編成委員会の開催予定について連絡があった。

2. 閉会の辞

西村 宜晃職員が閉会の挨拶を行い、教育課程編成委員会が閉会した。

【配付資料一覧】

- ・令和2年度 第1回教育課程編成委員会 次第
- ・学校法人中央工学校 中央工学校 OSAKA 教育課程編成委員会委員一覧
- ・令和2年度 学校関係者評価書
- ・令和2年度 教育基本方針
- ・カリキュラム

以上